



国土交通省大臣認定工法

登録番号: KT-160071-A

・国土交通省大臣認定
TACP-0641 砂質地盤(硬質地盤含む)
TACP-0642 粘土質地盤

・日本建築センター 基礎評定(引抜支持力)
BCJ 評定-FD0540-02
砂質地盤、硬質地盤、粘土質地盤

・日本環境協会
エコマーク認定 08 131022号

■ 全ての鍵は杭先端にあり

杭基礎は建物荷重を支持地盤へ伝達させる最も重要な役割であり、故に、杭先端拡翼部の貫入(掘削)性、変位・変形・破断などを発生させない高い性能が要求されます。

■ 貫入性の問題を... **「変型穴」**により解決しました。

■ 拡翼変形の問題を... **「特殊部」**により解決しました。

■ コストの問題を... **「自社施工」**により解決しました。

■ 高力構造／拡翼断面図

(両面溶接) (特殊部/分割構成)

■ FEM解析図

建築・土木・鉄道、さまざまな場面で活躍しております。



これからの未来を担う企業へ エンジェル税制

① エンジェル税制とは

エンジェル税制とは、個人投資家がスタートアップ企業などの未上場企業に出資した場合に、所得税や譲渡所得税の負担を軽減するために設けられた税制優遇制度です。日本では経済産業省が所管し、創業間もない企業への資金供給を促進する目的で整備されています。具体的には、一定の要件を満たす企業に投資した場合、「優遇措置A」と「優遇措置B」のいずれかを選択でき、出資額の一部をその年の所得から控除できる、または株式売却時の譲渡益と相殺できる仕組みになっています。これにより、投資家の税負担が軽減され、リスクの高いスタートアップ投資への参入ハードルを下げる効果が期待されています。同時に、資金調達に悩む創業期企業にとっても、成長のための重要な資金源となる制度です。

② エンジェル投資とは

エンジェル投資とは、創業初期または事業立ち上げ間もないスタートアップ企業に対して、個人投資家が自己資金で行う投資のことを指します。投資家は「エンジェル」と呼ばれ、単に資金を提供するだけでなく、自身の経営経験や人脈、専門知識を活かして、経営助言や事業支援を行うケースが多い点が特徴です。スタートアップ企業は、実績や担保が乏しいため、金融機関からの融資を受けにくい状況にあります。そのため、エンジェル投資は創業期における非常に重要な資金調達手段となっています。一方で、企業の成長次第では株式価値が大きく上昇する可能性がある反面、事業が軌道に乗らず投資回収ができないリスクも高く、ハイリスク・ハイリターンな投資として位置づけられています。



詳しくは
経済産業省HPを
ご確認ください。



ワンポイント 健康コラム

<<新しい一年を健やかにスタートするために>>

健康管理

新年を迎え、気持ちも新たにスタートする1月。寒さが最も厳しく、生活リズムが乱れやすい時期でもあります。仕事のパフォーマンスを安定させるためにも、年初めから健康管理を意識することが大切です。今回は、無理なく続けられる健康のポイントを5つご紹介します。



① 正月明けの生活リズムを整える

年末年始の休暇で、就寝・起床時間や食事の時間が不規則になります。生活リズムの乱れは、集中力低下や体調不良につながります。1月はまず「起きる時間を一定にする」ことを意識しましょう。朝日を浴びることで体内時計が整いやすくなります。食事でも三食をできるだけ同じ時間帯に取り、仕事モードへの切り替えをスムーズに行いましょう。



② 冷え込みへの万全対策

1月は一年で最も寒さが厳しい時期です。冷えは肩こりや腰痛、血行不良の原因となり、業務効率にも影響します。オフィスでは首元を温めるスカーフやひざ掛けを活用し、体温調整を心がけましょう。また、温かい飲み物をこまめに摂ることで内側から体を温めることも効果的です。冷えをため込まない工夫が大切です。



③ 冬の感染症予防を徹底

インフルエンザや風邪が流行しやすい1月は、基本的な感染症対策が欠かせません。手洗い・うがいを習慣化し、マスクの着用や咳エチケットを意識しましょう。体調に違和感がある場合は無理をせず、早めの休養を取ることも重要です。一人ひとりの心がけが、職場全体の健康維持につながります。



④ 運動不足を解消する工夫

寒さの影響で外出や運動の機会が減り、運動不足になりやすい時期です。デスクワーク中心の方は、1時間に一度立ち上がって体を伸ばすだけでも血流が改善します。通勤時に歩く距離を少し増やす、昼休みに軽いストレッチを行うなど、無理のない範囲で体を動かす習慣を取り入れましょう。



⑤ 年初めに健康目標を立てる

1月は新しい目標を立てるのに最適なタイミングです。「毎日少し歩く」「夜更かしをしない」など、小さく具体的な健康目標をおすすめです。無理な目標は続きにくいので、達成しやすい内容意識しましょう。健康意識を高めることで、一年を通して安定した体調と仕事のパフォーマンスにつながっていきます。



経理マンが行く

謹賀新年!

<新年あけましておめでとうございます。>

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。管理部経理課の鈴木 航です。米に並んで、朝食の主役ともいえる食パンやクロワッサンといったパン。



皆さまはパンの中でも「グルテンフリー」という言葉を耳にするとお思います。私は「グルテンフリー」と聞くと、「健康に良いもの」と結びつけて考えておりました。しかし、食品メーカーが謳っている程、健康に貢献するものではありませんでした。今回はそんな「グルテンフリー」について、触れてまいります。



【グルテンフリーとは】

一般的に、グルテン(※)を摂取しない食事法のことを「グルテンフリー」と呼び、もともとはグルテンが原因で腸が傷つく「セリアック病」患者の食事として考案された食事療法です。

※グルテンとは…小麦や大麦、ライ麦等の穀物に含まれるタンパク質のことで、食品に粘弾性を持たせる性質があることから、パンの他にピザやパスタ、お好み焼き等、様々なジャンルで使われています。

【グルテンフリーがあまり健康に貢献しない?】

グルテンが体に合わず下痢や腹痛などで体調を崩す方については、上述の食事療法により改善される可能性があります。ただし、ダイエットや肌トラブルの改善などに効果が期待できる可能性も示唆されていますが、こちらについては科学的な根拠がありません。



ハーバード大学医学部主要関連教育病院(BIDMC)では、「グルテン自体は本質的に不健康なものではなく、ほとんどの人については、グルテンを避けるべき科学的根拠はない」としており、グルテンフリー製品は食物繊維が不足している他、脂肪分やカロリーが高い傾向があることから、グルテンフリー食を必要とする患者が、望まない体重増加に悩むケースは珍しくない、と話す医療関係者もいます。



【なぜグルテンが悪者に?】

2014年に米国食品医薬品局(FDA)が、食品に「グルテンフリー」の表示をする際の基準を定めたところ、食品メーカーはもともとグルテンが含まれていない製品をグルテンフリーであると宣伝しはじめ、そこにメディアの過剰な宣伝が加わったことで、次第に消費者たちに「グルテンは避けるべき」という印象が与えられるようになりました。

ちなみに、グルテンフリー食を必要とする「セリアック病」の世界有病率は約1%です。

やはりメディアが発信する情報の影響力は大きいですね…。メディアに流されることなく、自身に合った食事法を生活に取り入れることが大切なのかもしれませんね。